

シリーズ「循環器疾患」①

「狭心症・心筋梗塞について」

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

循環器内科 岡村 英夫

みなさん、はじめまして。和歌山病院で主に心臓の病気を担当しています。今回は、心臓・血管の病気＝循環器疾患をテーマにしたシリーズです。第一回は、心臓の病気で最も有名な狭心症・心筋梗塞をとりあげます。

狭心症、心筋梗塞はどちらも心臓を栄養している(＝酸素を送る)血管(冠動脈と呼ばれる)の動脈硬化によって引き起こされる病気です。心臓の栄養血管は大きく3本に分れますが、3本の血管が心臓の頭側に冠のように被さっている様子から冠動脈と名付けられたそうです。この冠動脈が動脈硬化によって狭くなり、安静にしているときでも自覚症状はないですが、階段を昇るなど心臓に負荷がかかると心臓が酸素不足におちいり、胸の圧迫感を自覚する、少し休めばおさまる、というのが典型的な狭心症の症状です。

さらに、狭くなっていた冠動脈が突然詰まってしまふことがあります。詰まった先の心臓は酸素不足で壊死してしまいます。これが心筋梗塞です。狭心症の胸痛は一過性ですが、心筋梗塞の胸痛は持続します。狭心症

脈が詰まったままだと、どんどん心筋が壊れてしまうので、少しでも早く血管を再疎通させるのです。イメージとしては、冠動脈の細くなっている場所を確認し、その場所の動脈硬化を血管の壁に押し付けてやる感じですね。押し付けただけではまたすぐ詰まってしまいますので、ステントと呼ばれる金網で冠動脈を内側から補強してやります。心臓の病気は命に直結することがありますので、緊急のカテーテル治療は、24時間体制で受け付けてくれる病院がいくつもあります。

狭心症の特効薬としてニトログリセリンというのを聞いたことはないでしょうか。この薬は血管を広げる効果があり、狭心症発作の時に吸収の速い舌下錠として頓用で使用されることが多い薬です。動脈硬化で細くなっていた血管を広げるわけではないのですが、血管を広げると血圧が下がるので、結果として心臓の負担が減り胸痛がおさまるのです。心筋梗塞の時に使った薬は、詰まった冠動脈は詰まったままなので胸痛はおさまりません。

狭心症、心筋梗塞ともにカテーテル治療が普及しています。冠動脈の狭くなったところを治す治療で、冠動脈形成術と呼ばれています。心筋梗塞をおこした場合は、一刻を争ってカテーテル検査を争ってカテーテル検査を行います。冠動

狭心症・心筋梗塞の根底にあるのは動脈硬化です。動脈硬化は心臓病だけでなく脳卒中など様々な病気の悪の根源です。第二回から第四回は、動脈硬化をテーマにとり上げて考えてみたいと思います。

